

## 第1節 ごみの減量化・資源化の推進

### 北九州市一般廃棄物処理基本計画の推進

北九州市は、ごみ処理の基本理念をこれまでの「リサイクル型」を一歩進め、ごみの発生抑制（リデュース）、再使用（リユース）、再資源化（リサイクル）を基本に、再生品の需要拡大（グリーン購入）に至るまで総合的な取組を図る「循環型」に発展させるため、平成13年2月に北九州市一般廃棄物処理基本計画を策定しました。計画の重点課題である「事業系ごみ対策の強化」と「家庭系ごみの循環型システム構築」について「北九州市ごみ処理のあり方検討委員会」において検討を重ねられ、具体的推進方策が提言されました。

事業系ごみ対策については、自己処理責任の原則に立ち返り、平成16年10月から、事業系ごみの市収集の原則廃止、自己搬入ごみの処理手数料の改定（700円/100kg → 100円/10kg）、リサイクル可能な古紙・廃木材の市施設への受け入れ廃止、かんびん資源化センターへの自己搬入の廃止を実施しました。また、平成19年4月からは、「廃棄物の減量及び適正処理に関する条例」に定める「資源化・減量化計画書策定事業所」の対象基準を延べ床面積3,000㎡以上に加え、店舗面積500㎡以上の小売店も対象とし、事業者のごみ排出抑制の取組を強化しました。

家庭系ごみの循環型システムの構築については、平成18年7月に「分別・リサイクルの仕組みの充実」と「手数料の見直しによる減量意識の向上」という2つの施策を組合せた「家庭ごみ収集制度の見直し」を行い、家庭ごみ処理量の20%削減（平成15年度対比）と市全体のリサイクル率25%以上（平成15年度15%）という目標を掲げ、様々な取組を進めています。また、ごみの発生抑制をさらに進め、消費行動の段階からごみの減量化を図ることを目的として、平成18年12月から全市共通ノーレジ袋ポイント事業「カンパスシール」を開始しました。

平成16年10月の「事業系ごみ対策」、平成18年7月の「家庭系ごみ収集制度の見直し」などを実施した結果、ごみ量は、平成15年度の51万4千トンから平成18年度には、41万7千トンと約10万トン減少しました。

### 資源化物の分別収集

資源化物の分別収集については、すべて行政が実施するのではなく、町内会などによる市民回収や事業者回収など、各主体が責任や取組を分担することで、環境に対する意識の向上や地域コミュニティの醸成、行政コストの削減を図ります。

- 行政が収集しているもの（かん・びん、ペットボトル、プラスチック製容器包装、紙パック・トレイ、蛍光管、小物金属）
- 市民の自主的な取組への支援（子ども会や町内会等が行う古紙回収への奨励金の交付）
- 事業者が取り組むもの（電池、リターナブルびん、新聞・ちらしなど）

#### かん・びん、ペットボトルの収集量（有料指定袋ステーション収集方式）

年度	H15	H16	H17	H18
収集量(t)	15,713	13,992	13,259	13,659

#### プラスチック製容器包装の収集量（有料指定袋ステーション収集方式）

18年度収集量	7,317トン
---------	---------

※平成18年7月から分別収集開始

#### 紙パック・トレイの収集量（拠点回収方式）

年度	H15	H16	H17	H18
収集量(t)	263	241	263	413

#### 蛍光管の収集量（拠点回収方式）

年度	H15	H16	H17	H18
収集量(t)	55	56	64	83

#### 小物金属の収集量（拠点回収方式）

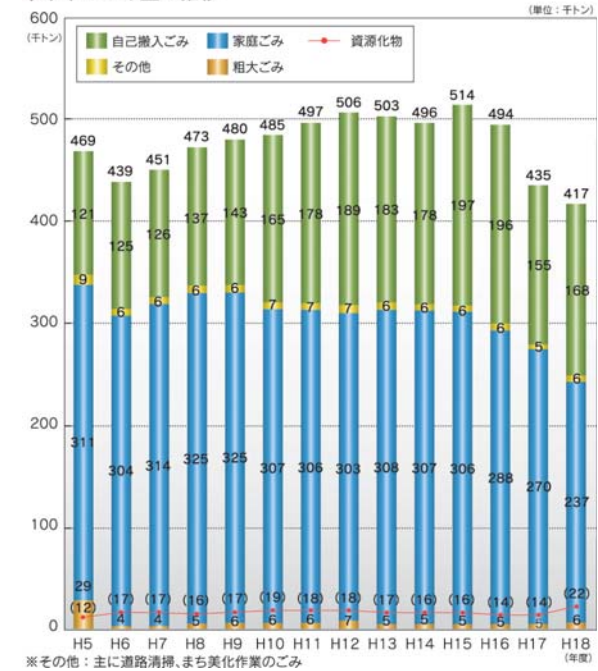
18年度収集量	119トン
---------	-------

※平成18年7月から分別収集開始

#### 古紙集団資源回収量

年	H15	H16	H17	H18
回収量(t)	18,943	19,549	21,542	27,654

◆本市のごみ量の推移

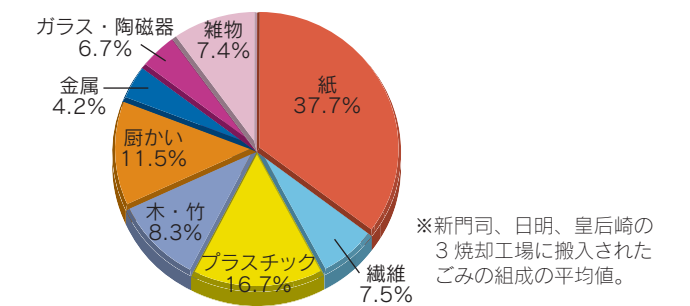


### 処理実績

各工場とも、市内から排出される可燃性の計画収集ごみ、自己搬入ごみ、一部の産業廃棄物などを焼却処理しています。焼却工場から排出される焼却灰は、最終処分場（響灘西地区廃棄物処分場）へ搬送し、埋立処分しています。次期埋立処分場については、新門司南地区に建設が予定されています。

施設名称	処理能力	平成18年度処理実績	実績比率
新門司工場	600t/日	127,412t	28%
日明工場	600t/日	143,452t	31%
皇后崎工場	810t/日	184,643t	41%
計	2,010t/日	455,507t	100%

◆平成18年度ごみ組成分析



### 省エネルギー対策

新門司工場、日明工場、皇后崎工場では、ごみを焼却する際に発生する熱を蒸気エネルギーとして回収し、自家発電や施設の空調設備等に利用しています。余剰エネルギーについては他の公共施設等に供給しています。なお、余剰電力については、他の公共施設へ送電し、さらに余った電力は九州電力(株)に売電し収入を得ています。

◆平成18年度自家発電効果

	新門司工場	日明工場	皇后崎工場
売電金額	20,000千円	12,000千円	1,034,000千円
発電による節約金額	60,000千円	171,000千円	308,000千円
計	1,605,000千円		

◆エネルギー利用状況

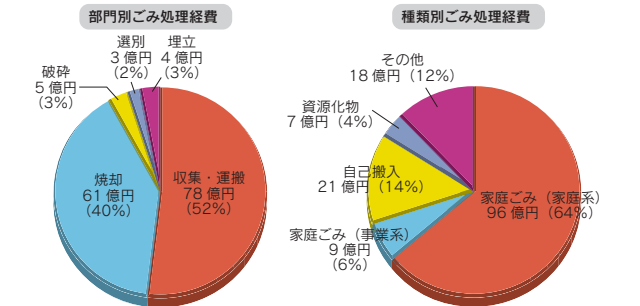
施設名称	蒸気利用状況	
	場内利用	他施設供給
新門司工場	空調・給湯	新門司環境センター（空調・給湯）
日明工場	空調・給湯	中央卸売市場（空調） 日明浄化センター（汚泥乾燥）
皇后崎工場	空調・給湯	皇后崎環境センター（給湯） 陣原駅地区（蒸気供給）

施設名称	自家発電利用状況		
	年間発電量	他施設供給	売電
新門司工場	800万kWh	新門司環境センター	余った電力は九州電力(株)へ売電
日明工場	3,900万kWh	日明浄化センター	
皇后崎工場	16,300万kWh※	皇后崎環境センター 皇后崎し尿投入所 皇后崎浄化センター	

※皇后崎工場では、蒸気タービンとガスタービンを組み合わせた「スーパーごみ発電」を行っています。

### ごみ処理経費

平成17年度のごみ処理には、年間151億円の経費がかかっています。ごみの種類別では、家庭ごみを処理するのにかかる経費が約96億円（約64%）と最も多く、市民一人あたりに換算すると年間約9,700円（一世帯あたりに換算すると年間約2万3,300円）となります。



### 平成19年度から新門司工場（新工場）が稼働

旧・新門司工場（処理能力600トン/日、昭和52年から30年間稼働）の施設や設備の老朽化が進み、処理能力の低下が著しくなったため、新しく建替えを行い、平成19年4月から稼働を始めました。

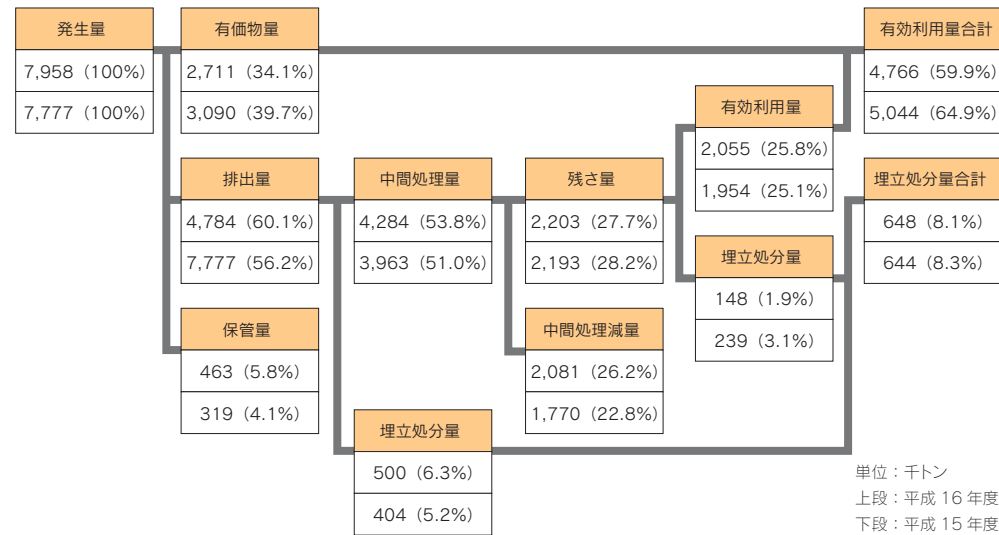
- 処理能力：720t/日（240t/日×3炉）
- 処理方式：シャフト式ガス化溶融炉



### 産業廃棄物の適正処理の推進

産業廃棄物の適正処理を推進するため、産業廃棄物処理業者への立入検査・不法投棄防止パトロール・不法投棄等通報員制度・不法投棄防止監視カメラ・許可申請時の審査指導など多面的な取組を積極的に進めています。

◆北九州市産業廃棄物の処理フロー



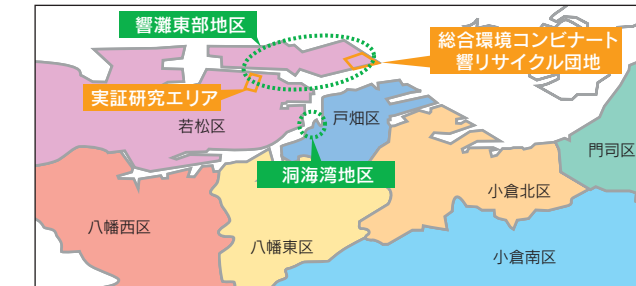
◆産業廃棄物処理業者数(平成18年3月31日現在)

許可区分	収集運搬業	中間処理業	最終処分業	計
処理業者数	2,229	156	7	2,392

◆特別管理産業廃棄物処理業者数(平成18年3月31日現在)

許可区分	収集運搬業	中間処理業	最終処分業	計
処理業者数	494	22	0	516

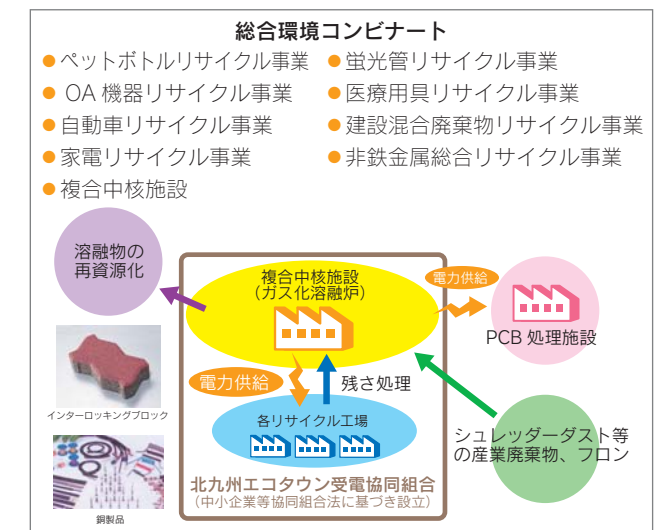
### 〈エコタウンエリア〉



- #### 響リサイクル団地
- 食用油リサイクル事業
  - 洗浄液・有機溶剤リサイクル事業・プラスチック油化リサイクル事業
  - 古紙の敷きわりリサイクル事業
  - 空き缶リサイクル事業 ● 自動車リサイクル事業

- #### その他の地区
- 発泡スチロールリサイクル事業 ● パチンコ台リサイクル事業 ● 廃木材・廃プラスチックリサイクル事業
  - 飲料容器リサイクル事業 ● 風力発電事業 ● OA機器のリユース事業
  - 古紙リサイクル事業・製鉄用フォーミング抑制剤製造事業

- #### 実証研究エリア
- 福岡大学資源循環・環境制御システム研究所 ● 新日鉄エンジニアリング(株)北九州環境技術センター
  - 九州工業大学エコタウン実証研究センター ● 北九州市エコタウンセンター廃棄物研究施設 等



### エコタウン事業の拡がり

- 北九州エコ・コンビナート構想：企業間の連携などにより地域レベルで廃棄物や副産物の資源循環や未利用エネルギーの有効活用による新たなビジネス展開を進めています。
- 北九州エコプレミアム産業創造事業：市内産業界全体の環境配慮活動の推進を図るため、市内の産業・技術分野の取組の中から環境配慮型製品・技術、サービスを選定しています。(平成18年度までに102件の製品・技術、18件のサービスを選定)
- エコアクション21の取得支援事業：市内中小企業等の環境配慮の取組を進めるため、セミナーや実践講座を開講しています。(平成18年度までに市内32企業が認証・登録)
- 環境未来技術開発助成事業：新規性、独自性に優れ、かつ実現性の高い環境技術の実証研究や社会システム研究に対して研究費を助成しています(平成18年度までに36件の研究に対し助成)

### 今後の取組

- 3R技術高度化研究会：今後事業化が有望と考えられる分野について、地元企業や大学、(財)北九州産業学術推進機構と連携してテーマに応じた部会を設置し、事業展開を見据えた研究・情報交換を進めていきます。
- アジアの国際資源循環拠点形成：アジアにおける国際的な資源循環を推進するため、循環資源を適正に管理する仕組みの構築やスムーズな輸出入ができる諸機能の集約の検討を進めていきます。

## 第2節 北九州エコタウン事業の推進

### 北九州エコタウン事業の概要

平成9年7月、全国に先駆けてエコタウン事業の地域承認を受け、平成14年8月にはエコタウン事業第2期計画を策定、平成16年10月には、対象エリアを市全体に拡大し、事業を進めています。

◆取組と成果

事業数	25事業(各種リサイクル法に対応したもの及び独自に進出したものを合わせ、わが国最大の事業集積)
実証研究数	38施設(終了分を含む)
総投資額	約592億円(市61億円、国等116億円、民間415億円)
雇用者数	約1070名

